

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271200228		
法人名	医療法人青虎会		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	静岡県御殿場市川島田1084～1		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区日千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成24年 3月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○週3回、MTによる音楽療法を行っている。歌だけでなく、まつわる時代背景、思い出などを引き出している。</p> <p>○毎月、行事を企画し、家族、民生委員にも参加を募っている。季節感を大切にしている。</p> <p>○車を利用してのドライブ・買い物、職員によるレク・体操など、気分転換を図っている。</p> <p>○日中は基本的には施設せず出入りできる。</p> <p>○本年度は震災への想いを共有し、自分たちにできることを考え、折り鶴を被災地に送る支援を利用者さんと共に行った。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療法人青虎会はフジ虎ノ門整形外科病院を核としての医療福祉エリアとして形成され、「グループホームふれんど」も所在しています。医療環境に恵まれ、エリア内の老健 あすなろ 等との連携も円滑で、人事交流もあり介護に関してはベテランから新人までバランス良く機能し良い環境でのケアがなされています。基本理念に基づき年度毎の行動計画を職員相互で作成し、そのコンセプトを念頭にした重点目標を定め、常に職員間で評価し、人としての尊厳を重んじての寄り添う介護は全職員に浸透していました。リーダー職員の各項目に対する自己評価は辛口で、常に質の高いケアを目指している事が理解出来ました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく生きられる。そしてすべての人に支えられる生活空間」を理念に掲げている。一年の目標をたて、毎朝のミーティングでは、復唱し、実践につなげている。	基本理念に基づき、その年度の重点目標も定め掲示し実践に結び付けています。また、その理念や目標は法人が作成する手帳スタイルのハンドブックにも掲載され朝礼時やミーティングの都度、唱和し確認をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に出向き、盆踊りや文化祭に参加させて頂いている。また、ふれんどの行事には、民生委員やボランティアに参加を呼びかけている。定期的にも交流している。	事業所と地域との交流は日常的に行われています。事業所の行事にはボランティアや地区住民の方々も多数参加され、地域が主催する行事には利用者の方々が喜んで参加するなど、良い関係が築かれていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などには、民生委員、ボランティアに来ていただき、事業所の様子を知ってもらったり、地域へ、日頃入居者が作った作品を展示させてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、日頃の生活の様子を知って頂いている。また、意見交換より、困っていることなどアドバイスももらったり、地域の情報も収集しながら、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的開催され、議事内容も多岐にわたり、事業所の様子がよく理解でき、活発な意見交換がされています。出席メンバーは民生委員、法人が運営委託されている地域包括、ご家族の有志が中心です。	運営推進会議を通じて事業所の存在を地域に発信したり、外部の空気をいただく意味からも、出席メンバーの中に自治会役員、市の担当者等も加えたバランスを再検討出来ないか期待を致します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、参加して頂いている。	市との関係は、事業所サイトでは事務手続き等、窓口業務程度で地域密着型サービスとしての連携を考えると現場として見えないものがあります。運営推進会議の出席も、地域包括に委ねている面が多いようです。	直近の3回の運営推進会議には市担当者の出席の記録は見られません。介護保険の流れの中での地域密着型サービスに関しての連携が見えるものになる事を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げている。しかし、ヒヤリハットなどが多く、身体などへの危険が生じ、安全な生活に危機が及ぶときには十分な話し合いを行い、やむを得ない場合もある。(家族同意のもと)しかし、拘束しないケアに努めています。	ホーム職員全員が身体拘束禁止の意義を充分理解しているものの、一人の利用者については不随意的な胎動が激しく突発的な事故の未然防止のため止む負えず協力していただいていた。他は玄関の施錠もなく、守られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当然のことながら、あってはならないと、ひとりひとりが理解している。		

自己	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加している。ふれんどでも必要時には、連携し活用し、支援している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書を提示し、契約の際には家族へ説明し、同意を得ている。また、解約時は十分な説明を行った上、退居後フォローできるサービス調整を行っている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時に家族から直接伺ったり、年4回の家族会も開催している。要望が寄せられた場合には、検討してサービスの改善につなげている。	家族会への出席率は高いので意見や要望の吸収に努めていましたが、発言は少ないようです。そのほか、家族面接や面会のための来訪の時に極力お意見を聴かせていただくよう努めていました。運営に反映させるには至っていません。	今後、アンケート等の利用も計画したいとの事ですので、更なる検討をお願いします。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員から出た意見や決定した事項を実施できるようフォローしている。	同じエリアに所在する老健「あすなる」グループとして合同で諸委員会を設けているので各委員会への出席を通して提案や意見交換に努めていました。理念に基づく来年度の重点目標の設定も職員からの意見が反映されていました。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じたヒヤリングの機会をもち、指導を行い、各自が向上心をもって働けるよう努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設している老健の勉強会に参加したり、介護ミーティングで勉強会の場をもうけたりしている。また、外部研修へも参加している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議に出席している。ネットワーク作りを築いていき、サービスの質を向上させていきたいと思っている。		

自己	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅などへ訪問調査に伺い、アセスメントをおこなっている。気持ちを引き出せる声かけに配慮している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の想いを受け止める対応にも努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでニーズの優先順位を見極めた対応に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで生活してきた過程を大切に、継続できる生活環境作りに努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を得ながらひとつのファミリーとして、暖かい関係が築いていけるよう努めている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはひとときを楽しく過ごせるよう配慮している。時にドライブの時間を作り、住み慣れた土地を周りながら思い出を辿り、心が和めるよう支援している。	毎週の週間予定を作成する際、ドライブによる外出支援日を設定し、目的地に行く途中に住み慣れた土地の周辺を周ったり、法人が運営する他のグループホームを利用している馴染みの人を訪ねるなど、きめ細かな支援をしていました。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場面々々で席替えを検討している。食事、おやつ、レクリエーションなど、一人ひとりが交流しやすいよう配慮し 関わり合い楽しく生活できるよう支援している。		

自己	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特設の病院へ入院される方が居れば御見舞へ出掛けたり、老健へ移られる方が居れば会いに出掛けたりと、少しでもこれまでの関係性が絶ち切らないよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント等から、一人ひとりの意向を把握している。困難な場合は、その人の気持ちに立てるよう検討している。	法人のアセスメント様式にセンター方式を取り入れ、その人なりの生活歴や思い、その人が今出来る事を理解した上で、自立支援に向かっての支援が計画作成者及び職員とのチームプレイで実施されています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより本人や御家族から、これまでの生活背景を伺っている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子はカルテへ記録している。心身状態や日頃とは違う変化なども記録し、一人ひとりの把握に務めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	六ヶ月に一度見直しを行ない、三ヶ月毎に評価を行っている。入院後再入居の方には、見直しを行っている。	計画的な見直しや評価の実施のほか、利用者の現状に即した介護計画の見直しは、随時、行われていました。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートから情報を収集し、次のステップへ活かせるよう務めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りノートを活用し、対応する方法を検討し、実践へつなげている。詳細についてはカンファレンスにおいて確認し、検討している。		

自己	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りが好きな方は、盆踊りへ参加して頂いたり、物作りが出来る方には、文化祭に向けて作品作りを行って頂いたり、楽しんでいけるよう支援している。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際し、併設病院の方が安心と、主治医を変える方が多い。急変時には家族へ連絡し、受診している。	ホームが所在するエリア内に併設されている協力医である病院には宿直医も常時待機しているのでかかりつけ医として、入居時に主治医を変更されているようです。特に、医療関係には恵まれています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健師長へ毎朝入居者の状態を伝えている。その時の症状時には、その都度報告し見てもらい、状態により受診している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にはお見舞いに伺い、ナースより状態を伺い病院との連携は取れている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設の老健師長も含め十分な説明と話し合いの場を設け、今後の方針について決定している。	本件に関しては、エリア内に併設されている老健「あすなろ」、フジ虎ノ門整形外科病院とも連携が出来ているので協力をお願いしている事をご家族に説明しているのが現状です。将来方向としては、本人、ご家族の思いを如何に汲み取って対処するかが必要と認識しています。	本人やご家族の思いを大切に重度化や終末期に向かったの指針を話し合い、まずは文書化し双方で確認し合う事が必要と考えます。在宅と同じように住み、良い形で老い、終末期を迎える利用者には次の段階を期待致します。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設けている。併設老健の緊急時対応の勉強会にも参加している。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを設けている。避難訓練も実施している。地域との協力体制については、この頃途絶えているため、また運営推進会議を通し、議題にあげていきたい。	エリア内法人全体の問題として防災関係の会社の指導のもと組織的に取り組んでいます。避難訓練なども実施され、職員各自がケースよりの自分の持ち場を理解して行動が取れるようになっていました。	

自己	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの方の生きてきた軌跡を重んじ、個性を見極め、合わせた言葉かけや、対応につとめている。	利用者一人ひとりの自立しようとしている姿や思いを尊重し、その世界に踏み入るような事がないよう、ミニ研修など行う都度に法人理念を念頭に置いての話し合いがされています。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から伝えてくる方には、思いを受けとめ、その都度対応している。そうでない方にもこちらから声かけし、返答できるよう働きかけている。補助的な声かけで本人の気持ちを引き出せる雰囲気作りに努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースは把握している。手伝い、レクなどは、本人希望を優先し、支援している。行事がある日は朝、知らせている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感を第一に、介助が必要な方には、支援している。散髪希望される方は、近隣の床屋に行ったり、なじみの店でカットされたりしている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	素材の下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭きなど、その方のできる範囲での協力をお願いしている。一緒に行くことで話題の共有もできる。一人ひとりの好みも把握し、料理に反映している。誕生日には、好きなメニューも取り入れている。	利用者がADLに応じたご自分の持ち場を理解していて、配膳から片付けまで自然体で手伝われ、食事の時には、隣人で不便している方への配慮も見られます。職員の食事支援も一緒に食事しながら皆との笑顔の中で行われています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食が不十分な方には、併設の栄養士、看護師にもアドバイスをもらって支援している。食事以外でも午前、午後のお茶の時間をもうけ、水分を補っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には、口腔ケアを行っている。義歯の方には毎夜、ポリドント洗浄を行っている。		

自己	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけや時間での誘導によって失敗を少なくしたり、自然な排泄ができるように支援している。	排泄については、利用者一人ひとりのADLに応じて、ほぼ自立出来ている方が殆んどであると伺いました。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面で特に気をつけている。毎日の食事にヤクルト、ヨーグルトの乳製品をつけている。食物繊維がとれるよう献立も工夫している。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の効用を再確認し、希望ある方にはその時間に合わせ入浴して頂いて。好きな方は毎日入られている。	利用者各自の意思により、時間帯も定めずに随時、入浴が楽しめるようになっていました。毎日の通常の流れの中で支援されています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの方がマイペースで休息されている。部屋に入って休まれる方も、リビングで休まれる方もいる。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつでも見られる様にファイルしており、変更あった時はカルテでも知らせる。介助が必要な方には、服用時飲み込みを確認する。状態の変化には、師長、看護師へも随時報告し、連携をとっている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にしたり、現在の嗜好も考慮し、役割や作品作りで張り合いや楽しみをもっていただいている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩など希望に応じ支援している。ドライブを取り入れ、行きたいなじみの場所にも出かけている。家族へも働きかけ、外出の機会をもってもらおうようにしている。	近隣への徒歩による外出支援は日常的に行われ、ドライブを兼ねての近郊の行楽地等への訪問もかなり行われている事が、ホーム内に掲示されている沢山の写真や月間のふれんど新聞を拝見する事で理解できます。	

自己	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により本人管理されてる方もいる。所持していれば安心できる方は、少額を所持している。基本的にはこづかい帳で管理している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使って自由にやりとりしたり、ホーム内の電話を使って家族、知人との交流はできるよう、支援している。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさ、温度など利用者さんが快適に過ごせるよう、こまめに調節している。カレンダー作り、行事のお知らせなどで季節感を出している。散歩で摘んで来た花を飾ったり場所がわかるような掲示など、工夫している。	コンクリート壁でありながら玄関からリビングに至るまで壁にはホームの新聞や利用者・職員が作成した季節感あふれる諸作品などが各所に展示されていて採光も良く、温かみと穏やかで落ち着いた雰囲気があります。利用者各位が思い思いに過ごしている姿を拝見しました。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	きさくに話ができたり、テレビを観たりする為のソファのある空間、食後もくつろげるテーブルのある空間があり、思い思いに過ごしている。隣のユニットにも通じていて、遊びにいかれる方もいる。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、もの、服などを持ち込み生活されている。自分の作品、家族の写真など飾られてる方もいて気の休まる空間となっている。	居室も明るく、清潔に整備されていて、持ち込まれている品々からは利用者のお人柄やお家族の思いも感じる事が出来ます。静かな安らぎの中での居室になっています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっていて、歩行不安定な方も介助にて歩きやすくなっている。フロア、トイレ、浴室にも多様な手すり、十分なスペースがあり、安全面をサポートしている。		